



さくら便り

vol.4号

令和8年1月

発行：医療法人啓仁会 豊川さくら病院

編集：豊川さくら病院 広報委員会

私たち、

「ありがとう」を贈り、「ありがとう」を頂き、
「ありがとう」であふれる空間を作り続けます。

豊川さくら病院 理念

暮らしを支える医療へ

多職種でつなぐ、安心・安全な地域ケア

2025年10月より豊川さくら病院 内科に勤務させて頂くことになりました深谷兼次と申します。

2007年に福島県立医科大学を卒業後、豊橋市民病院で6年、名古屋大学医学部付属病院で6年、再び豊橋市民病院で6年半勤務し、この度当院へ勤務させて頂くこととなりました。

専門は循環器内科・救急・集中治療で、主に急性期疾患と全身管理に携わって参りました。心筋梗塞や不整脈に対するカテーテル治療や心停止・循環不全に対する補助循環機器の管理、心臓移植といった緊急救度・侵襲度の高い治療を行っていた一方で、心不全の多職種地域連携に取り組み、慢性期のケアに対するシステム作りも行っておりました。心不全は慢性疾患のため悪化する可能性があり、薬やカテーテル・手術による治療のみならず食事や運動習慣といった生活面にも介入が必要な疾患で、また高齢患者さまの身体機能や認知機能に応じた対応も必要になります。そのため患者さまが安心・安全に生活を送るために多職種で連携して病院内外で継続的かつシームレスなケアを提供する必要があると実感していました。

微力ではありますが豊川さくら病院の一員として多職種で力を合わせて地域に貢献できるよう一生懸命に努力して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

はじめまして



深谷 兼次 内科部長

当院へ勤務するにあたって太田院長から

「当院は回復期病院としてリハビリのみを提供するのではなく、患者さま個々の退院後の生活を見据えた全人的な介入をする病院」とご説明頂いたときに自身の信条と合致しており、また多職種地域連携の経験を活かせる環境と感じました。

ENJOY! 行事食

行事食で感じる、季節のよろこび♪

委託給食会社の方にご協力いただき、10月31日のハロウィンにかぼちゃとチョコのババロアの提供、11月12日には秋の食材を使用したお食事の提供を行いました。

献立：きのこごはん・鶏肉の照り焼き・さつまいもサラダ・すまし汁

冬季はクリスマス・お正月・バレンタインに行事食や手作りデザートの提供を予定しております。栄養科では、今後も入院生活の活力に繋がるようなお食事の提供ができるよう努力していきます。

栄養科 管理栄養士
副主任 牧原 萌





One Teamで支える患者ケア：多職種カンファレンスの力



ある難渋ケースの課題



高い転倒リスクとADLの低下
高次脳機能障害と認知症により、
終日抑制が必要な状態でした。



リハビリテーションの停滞
食事摂取も困難で、薬剤の影響で
日中の活動性が低下しました。



「せっかく回復期病棟に…」
担当者一人では、回復への道筋を
描けず悩んでいました。

多職種合同 カンファレンス

多職種合同 カンファレンス

多職種カンファレンスによる解決策



抑制をなくし、自由な歩行環境を確保
環境調整と見守り体制をチームで
整えることで実現しました。



ADLが回復し、食事が可能に
薬剤調整や栄養状態について
多職種で連携し、改善しました。



「One Team」で描く回復への道筋
多方面からの意見が、一人では不可能
だった解決策を生み出しました。

One Teamの現場から：3階病棟の取り組み

当院では月1回、多職種合同カンファレンスを実施しています。これは毎月担当者のみで行うリハビリカンファレンスとは異なり、難渋ケースを病棟全体の課題として取り組むもので、その日の出勤スタッフ全員が参加します。そのため、より多くの情報を得られることが大きなメリットであり、日々変化する患者さんの状況を把握し、より良いサービス提供に向けて多角的な視点で意見交換することができます。多職種で現状を共有することで、退院に向けた課題をチームとして再確認し、情報共有を密に行なうことがADL改善や早期退院につながっていると、カンファレンスを通じて実感しています。

以前、担当した患者様は高次脳機能障害と認知症の影響により、転倒リスクが非常に高く、終日抑制が必要な状態となつたことがあります。食事摂取も困難で点滴治療を要し、薬剤の影響で日中の活動性が低下し、リハビリが進まない状況でした。「せっかく回復期病棟に入院されたのに…」という思いで、多職種カンファレンスに相談しました。

その結果、転倒リスクを最小限に抑える環境調整と見守り体制を整えることで抑制をなくし、自由に歩行できる環境が確保できました。さらに、昼夜のバランスを整えるための薬剤調整や栄養状態の維持について多職種で話し合い、調整を行ったことで、患者さんのADLは徐々に回復し、食事摂取も可能となりました。多方面からの意見により、自分ひとりでは描けなかったADL回復への道筋を立てることができ、多職種連携の必要性を改めて実感できた事例でした。

時には職種ごとに意見が異なり、まとまらないこともあります。しかし、それは各職種が日々、温かく熱心に患者さんに寄り添っているからこそだと思います。

「One Team」——2019年度ラグビーワールドカップに出場した日本代表チームのスローガンです。「1つのチームになろう」。これはまさに回復期病棟のスローガンでもあると感じています。さくら病院回復期病棟は、One Teamで患者さんを支えていきたいと思います。

安心して受診いただくための“病院の窓口”～医事課のご紹介～

安心して受診いただけるよう、医事課では受付から会計、各種書類の手続きまでを一貫してサポートし、初めて受診される方や制度に不安をお持ちの方にも寄り添いながら、分かりやすいご案内と丁寧な説明に努めています。また、さまざまな制度変更に対応できるよう対応できるよう、スタッフは日々知識の習得に励んでいます。

保険証やマイナンバーカードに関するご相談、診断書の申込方法、会計手続きなど、よくいただくお問い合わせに柔軟にお答えしながら、患者様やご家族様が安心して医療を受けられるよう、より良い窓口づくりを目指しています。お困りの際は、どうぞ遠慮なくお申し付けください。

【総合受付のご案内】



1階 正面受付



月～土 8:30～17:30

お知らせ

マイナンバーカード(マイナ保険証)の
ご利用を推奨しております。

総合受付
General reception

云取
Account



豊川さくら病院 基本方針

- 心通う医療や福祉を通じて、心と身体の回復を図れるよう一緒に歩みます。
- 生活の中で必要な活動に結び付ける回復リハビリテーションを提供することにより、患者様の日常生活機能が向上するように努めます。
- 社会生活の中で、人が人らしく生きて暮らしていくために、その人らしい社会生活行為の継続が可能となるように努めます。
- 多職種協働により質の高い医療及び福祉を提供し、患者様利用者様の生活支援に努めます。
- 地域の医療・福祉関連施設と連携し、それにより生み出される医療及び福祉を、患者様に向けて全力で提供できるように努めます。
- 私たちと患者様との回復リハビリテーションによる共生の下には、「ありがとう」があることを常に忘れません。